




## 2月-3月のイベント

 さんべの森たんけんたい <b>冬の森であそぼう</b>	2/1日 10:00-13:00	そりなどの雪遊びとたき火で、冬の三瓶山を楽しみます。	<b>要予約</b> 定員：親子8組 料金：大人300円 小学生以下100円
 月イチガク① <b>くにびき神話の地質学</b> ～悠久の時と三瓶山～	2/14土 14:00-15:30	くにびき神話の舞台となった島根半島・宍道湖中海地域における、神話さながらの大地の歴史を紹介します。 <b>※オンラインは無料</b>	<b>要予約</b> 定員：会場20名 料金：入館料
 <b>きっずサンデー</b>	2/15日 3/15日	しまね家庭の日にあわせて、きっずプラネタリウムやデジタル紙しばいなど、キッズ向けイベントが満載の1日。 <b>※保護者同伴で小中高生無料</b>	定員：なし 料金：入館料
 さわってみよう♪ <b>わくわくワゴン</b>	2/22日 3/22日	ふだんはさわることができない標本ですが、この日はワゴンに乗って登場！楽しいお話で生き物の不思議にせまります。	定員：なし 料金：入館料
 <b>星よりも遠くへ</b>	3/8日 12:00-13:45	東日本大震災に関連するプラネタリウム番組の上映と「まい＆れいれい」のコンサートを行います。	定員：100名 料金：無料
 月イチガク②フィールド <b>なんだ？このアナ</b> ～温泉津海岸のナゾ～	3/14土 14:00-15:30	温泉津海岸にあるフシギな穴を、この地ならではの大地の特徴を探りながら歩きます。 <b>※集合場所：温泉津運動公園駐車場</b>	<b>要予約</b> 定員：会場20名 料金：100円

**要予約** このマークがあるイベントは、1ヶ月前から実施する施設ごとに予約を受付します。

 三瓶自然館：0854-86-0500  三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500 (さんべ縄文の森ミュージアム)  三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

※イベントが変更、中止の場合はHP等でお知らせします。

※毎週土曜日の天体観望会は予約制（ホームページから、その他はお電話）で実施しています。

※4～11月の毎週土曜日の「北の原お散歩ツアー」、毎週土、日曜日と祝日の「天文ミニガイド」は、入館された方を対象に予約不要で開催しています。

## 三瓶自然館サヒメル開館 35 周年

今年、当館は開館35周年を迎えます。1991年10月18日に島根県全体を博物館とみなした「フィールドミュージアム構想」の中核施設に位置づけられ、「三瓶山の自然が展示物」というコンセプトで開館しました。2002年4月に新館が建ち、自然系博物館として再オープンしてからも、このコンセプトを受け継いで本物の自然を活用したイベントや観望会を行っています。

今年も自然をテーマにした企画展とさまざまなイベントを用意してみなさまのご来館をお待ちしております。



開館記念式典で地元小学生が披露したマーチングバンド

## 島根県立三瓶自然館サヒメル

○開館時間/9:30～17:00

○休館日/毎週火曜日

(火曜日が祝日の場合は翌平日)

年末年始休館(本年度：12/27～1/1まで)

その他、メンテナンス休館あり



## 三瓶フィールドミュージアムニュース &lt;隔月発行&gt;

編集・発行 公益財団法人しまね自然と環境財団

〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501

<エコサボしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 TEL 0852-67-3262

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。  
エコサボしまね(松江事務所)では、地球温暖化対策等の事業を行っています。

Sanbe Field Museum News  
さんべ発!

No.194

2026年1月号

島根県立三瓶自然館 ニュースレター



## 氷の力

写真は大田市温泉津町の福光石の石切場。この光景に「氷の力」が関わっています。

見学している人たちの左側は手作業で石を採った跡が残る岩盤で、右側は岩盤の上部が崩れ落ちた巨大な落石です。石切場は落石がつきものですが、長く働いた人の経験によると石が落ちるのは冬の朝が多く、仕事で現場に行った時には落ちた後だそうです。

冬に石が落ちる理由が氷の力。岩盤の割れ目にしみ込んだ水が凍って膨張し、割れ目を

広げることが原因です。水は凍ると10%近くも膨張して、その力は巨大な岩さえも動かしてしまうのです。冬の夜に強く冷え込んだ時に岩の隙間で水が凍ることがくり返されて、少しずつ割れ目が広がります。やがて限界に達した時に石が岩盤から離れて落ちる。それは凍りつつある時か、氷が溶け始めた瞬間なのか。いずれにしても夜から明け方に落ちる確率が高いのでしょう。それにしてもわずかな氷に岩を押し広げる力があるとは驚きです。





# 01 カメムシから学ぶ島根の自然

晩秋になると、毎年のように話題になる昆虫の1つがカメムシです。カメムシの仲間には成虫で冬を越す種類があり、多くの種類は野外で越冬します。そのうち一部の種類は寒くなると屋内に侵入して越冬しようします。くさいにおいを出す上に集合する習性もあり、たくさん飛来するとやかいです。建物にやってくるカメムシの種類は決まっており、最もよく見られるのはクサギカメムシ、山地では小型のスコットカメムシもやってきます。

ところで、皆さんはカメムシのことを何と呼んでいますか。ヘコキムシのように全国各地で使われる呼び名もありますが、島根では昔から地方名(方言)での呼び方もよく使われています。私が直接聞いたことがあるのは、県東部や中部で使われるオジョロサン、ヒメサン、そしてハットージでしょうか。県西部で



クサギカメムシ(体長約15mm)



スコットカメムシ(体長約10mm)

はハウムシと呼ぶ地域も知られています。初めて聞くと、何の名前なのかわからず驚かされます。おそらく、カメムシは人々の暮らしに身近な昆虫として、昔から認識されてきたのでしょう。「カメムシが多い年は大雪」という言い伝えも時々聞くことがあり、気候との関わりも気になるところですが、こちらは科学的には証明されてはいない事象です。

近年は、家屋に飛来するカメムシの顔ぶれも少しずつ変化してきています。細い体をしたマツヘリカメムシや体長2cmを超える大型種のキマダラカメムシはいずれも外来種で、国内で分布が拡大しており、島根県でも各地で見られるようになっています。また夏から初秋に明かりに多数集まることがある、全身緑色のツヤアオカメムシは元々南方系の種類で、温暖化の影響により分布を北上させ、増えてきたとされる昆虫です。



マツヘリカメムシ(体長約18mm)



キマダラカメムシ(体長約22mm)

カメムシは、独特のにおいから厄介者として扱われがちですが、地域ごとに多様な呼び名が存在することからも分かるように、古くから人々の暮らしと密接に関わってきた身近な昆虫です。さらに近年では、外来種や温暖化など、私たちを取り巻く環境の変化を映し出す存在にもなっています。カメムシをただ嫌うだけでなく、その背景にある自然や気候にも目を向けてみることも大切なかもしれません。

(学芸課 皆木宏明)



ツヤアオカメムシ(体長約15mm)

## 02 雪原の名探偵！三瓶山アニマルトラッキングの魅力

冬の三瓶自然館周辺に積もる雪は、普段見えない野生動物の足跡を鮮明に残し、この季節ならではの「アニマルトラッキング」という自然の楽しみを提供してくれます。雪上に残された動物たちの痕跡を追うことで、その種類や行動を推理できます。

例えば、キツネはほぼ直線的な足跡を残します。一方、テンやタヌキ、アナグマの足跡は写真のようなジグザグになることが多いです。足跡の重なり方から、歩いていたのか走っていたのかも推測できます。



キツネの足跡：足跡はほとんど直線



テンの足跡：キツネものに比べてジグザグとした足跡になっている

また、足跡以外にも糞や食痕から動物の暮らしに迫ることが可能です。

積雪がない暖冬の時期でも、木々の冬芽や落葉痕を観察したり、建物の風裏で越冬中の昆虫を探してみると様々な発見があります。冬の三瓶山で、雪上の痕跡から動物たちの営みを読み解く「名探偵」になってみませんか。

(学芸課 安藤誠也)